【特別決議：２】毛島海上ボーリング調査の即時中止を求め、自衛隊馬毛島基地(仮称)建設及び米軍空母艦載機離着陸訓練（FCLP）移転計画並びに南西諸島における軍事拡大を阻止する特別決議

琉球弧（南西諸島）の最北、大隅諸島（鹿児島県）に位置する種子島の西方 12 ㎞、周囲 16 ㎞余りの馬毛島に、自衛隊馬毛島基地(仮称)を整備し、米軍空母艦載機離着陸訓練（FCLP）の恒久的な施設とする計画は、昨年 8 月に、その概要が初めて明らかにされた。

戦後初めて、まっさらな土地を国が取得して基地を作り、全国各地から陸・海・空自衛隊が集結して訓練を行う巨大訓練施設とし、また島嶼地域における「有事」の際に、兵力・武器・弾薬類・その他必要なものを集積し展開する後方支援施設すなわち兵站拠点となり、かつ米軍 FCLP に使われるという前代未聞の巨大軍事施設の姿が示されたのである。

２本の滑走路を含む航空管制施設や大型の軍艦が係留できる軍港の他に火薬庫の設置も想定され、馬毛島はまさに南西シフトの下で、戦争のための拠点としてその姿を大きく変えられようとしている。

馬毛島を行政区に持つ西之表市は、2011 年 6 月の日米安全保障委員会（ツープラスツー）共同文書に馬毛島の名前が明記された時から一貫して、市長も市議会も、それを選び支えている市民も、この計画に「反対」し続けてきた。

昨年１０月には八板俊輔市長が「失うものの方が大きい」としてこの計画に同意できない旨を表明し、防衛省並びに県知事に対して、これ以上計画を進めないよう直接要請している。

しかし防衛省は、昨秋の「住民説明会」で、今はスタートラインだと言ったにもかかわらず、並行して海上ボーリング調査の手続きを進め、県もこれを許可し、12 月から調査が進められている。

海上ボーリング調査の目的は軍港建設であり、工事が始まれば「宝の島」と呼ばれる好漁場は失われる。

調査の強行は、先祖代々馬毛島周辺で漁を続けてきた漁業者の声を全く無視した暴挙であり、ボーリング調査自体が漁場を破壊する上、調査期間中漁ができない漁業者への直接的な補償は何一つ無く、一方同意した漁協と漁業者には監視船傭船料や海上タクシーの運賃が入るとされる。

ボーリング調査の許可を得るために必要な漁協の同意は、総会を経ることなく理事会独断で出され、手続き上に瑕疵があるとして、馬毛島で漁を行う漁業者は、国、県を相手に調査差し止め等を求める訴訟を起こしている。

さらに防衛省は、今年に入って基地の詳細設計に係る入札を公示した。

この詳細設計については、昨年度八板俊輔西之表市長が、土地買収も終わらない段階での詳細設計を遺憾として抗議した際に、防衛省側は「今後は地元に丁寧に説明する」としていたものだが、今回事前の説明は無く、地元無視の防衛省の姿勢に対して、八板市長は抗議と入札撤回を求める文書を防衛省に送っている。

奄美・沖縄島・宮古・石垣などの南西諸島へのミサイル配備計画も、馬毛島基地建設と米軍 FCLP 移転計画も、南西シフトと呼ばれる米国の中国封じ込め戦略に基づくものであるが、さらに昨年１２月には事実上の敵基地攻撃能力を持つミサイル防衛が閣議決定された。

南の島々の住民の意志や暮らしは無視され続ける一方で、自衛隊基地は米軍の戦略に組み込まれ、着々と戦争の準備が進められている。

私たちは、馬毛島の基地建設阻止が南西諸島での軍事拡大を止め戦争への道を閉ざす大きな足掛かりとなる重要な課題であることを訴え、地元西之表市民をはじめ、南西諸島で基地反対を闘う人々、連帯ユニオン議員ネットの一員である和田かおり前西之表市議とともに声を上げ、馬毛島ボーリング調査の即時中止と、自衛隊馬毛島基地(仮称)建設、及び米軍 FCLP 移転計画、並びに南西諸島の軍事拡大阻止を勝ち取るために、連帯し行動することをここに決議する。

2021 年 2 月 5 日「連帯ユニオン議員ネット」第 16 回大会参加者一同